

IV 家庭教育支援活動 の実践事例

◆平成25年度家庭教育支援活動一覧	・ ・ ・ ・ 179
◇近江八幡市	・ ・ ・ ・ 180
◇甲賀市	・ ・ ・ ・ 183
◇湖南市	・ ・ ・ ・ 185
◇高島市	・ ・ ・ ・ 187
◇東近江市	・ ・ ・ ・ 190
◇日野町	・ ・ ・ ・ 191
◇竜王町	・ ・ ・ ・ 193

平成25年度 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業 県内家庭教育支援活動事業一覧

○事業実施市町及び取組教育支援活動 7市町14活動

	市町名	学習講座・行事等の実施	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動
1	近江八幡市	○	○	○
2	甲賀市	○		○
3	湖南市		○	○
4	高島市	○	○	○
5	東近江市	○		
6	日野町	○	○	
7	竜王町	○		

○教育支援活動の内容

【学習講座・行事等】

	市町名	実施 学校区数	幼児期 講座	学童期 講座	思春期 講座	父親向け 講座・企業 出前講座	親子参加 行事	その他	計
1	近江八幡市	12		12					12
2	甲賀市	14		4			10		14
3	高島市	16	15	16	6				37
4	東近江市	9	8	6			2		16
5	日野町	5	19	15	1	5			40
6	竜王町	2					2	4	6

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	対象者	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	5	家庭教育支援コーディネーター	・主に学校における相談活動や研修会の企画 ・関係機関や家庭と連携して、問題の解決を図る
2	湖南市	2	地域教育活動支援者	家庭教育支援チームにおける活動
3	高島市	1	退職シニア層	・学校や家庭、地域での子育てボランティア
4	日野町	1	子育て支援員、一般	・子育てサロン等地域での子育て支援活動

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動 日数	主な活動内容		
				学習機会のコーディネート	相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	12	360 (延べ)	○	○	○
2	甲賀市	18	15	○		
3	湖南市	17	54	○	○	○
4	高島市	5	6	○	○	

1 【ねらい】

子育てで悩む保護者の一助となる教育相談、講演会、座談会などを開催し、子育てへの不安や悩みを解消する。



2 【概要】(日時・場所・対象・参加者数・講師等)

- 6月7日(金) 桐原東小学校 PTA 約35名
講師 居壁 太さん
- 6月7日(金) 老蘇小学校 PTA 41名
講師 飯村 悟さん
- 6月14日(金) 八幡小学校 1年保護者10名
座談会助言者 小林美保子さん
- 6月21日(金) 桐原小学校 PTA 他 約60名
講師 中江亜希子さん
- 7月22日(月) 北里小学校 PTA 45名
指導 北里小学校家庭教育支援コーディネーター
- 10月8日(火) 八幡小学校 2年保護者9名
座談会助言者 小林美保子さん
- 11月5日(火) 島小学校 PTA 他 約50名
講師 齋藤智孝さん
- 11月9日(土) 北里小学校 PTA 35名
講師 瀧口喜三男さん他5名
- 11月14日(木) 岡山小学校 PTA 約80名
講師 齋藤智孝さん
- 11月19日(火) 桐原東小学校 PTA 9名
座談会助言者 岡田さよ子さん
- 11月23日(土) 安土小 PTA・児童等740名
指導 地域のボランティアの皆さん
- 12月5日(木) 安土小学校 PTA・児童429名
講師 吉積 尚子さん
- 12月6日(金) 武佐小学校 PTA 10名
座談会助言者 馬場直子さん
- 1月18日(土) 老蘇小学校 PTA 約40名
- 1月23日(木) 安土小学校 PTA 約30名
講師 福地一雄さん

・子育て相談 10月～毎週金曜日 馬淵小学校
指導 馬淵小学校家庭教育支援コーディネーター 相談者延13名

3 【参加者の感想】

- ・「あれやいなさい」を「一緒にやろう」に変えただけで、子どもが以前よりやる気になり、怒ることも少なくなり、ビックリしました。
- ・見てと言われてもすぐに見てやれず、ほめてくれるつもりが買い与えていたり、日々の自分の行動を反省するきっかけとなりました。
- ・「早く」ではなく、「一緒に」に変えるだけで、本当に穏やかに過ごせる気がします。私だけでなく、パパも聴いてほしいと思いました。
- ・まず、大人の心が元気でないとい子どもの心も育たないので、元気な自分でありたいです。
- ・年齢とともに自我が育ってくることを、頭から怒らずに理解していかなければいけないと思いました。
- ・気になっていた子どもの行動が、先輩の話を聞いて「やっぱりそうだったのか」と納得しました。
- ・子どもたちの行事と同じ日なので、たくさんの保護者さんと話ができてよかった。
- ・一緒におやつを作ったり試食したりしながらだと、しゃべりやすかったです。いろんな話が聞けて良かったです。
- ・「育ちの道筋」を改めて知ることができました。



4 【事業の成果と今後の課題】

コーディネーターを中心に家庭教育支援活動の取り組みを行って3年目になり、活動の内容は定着しつつある。今後、PDCAサイクルを確立し、活動の内容をスパイラルアップしていきたい。

1【ねらい】

家庭教育支援コーディネーターを小学校に配置し活動してもらっていることから、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップが重要となってくる。

このようなことから、家庭教育支援コーディネーターに対して研修を実施することにより、家庭教育の向上に必要な講座や研修のあり方を計画し学校やPTAにも提案できる力をつけることをねらいとした。

2【概要】

＊日時・場所・対象・参加者数・講師等

○家庭教育支援コーディネーター研修会
(第1回)

7月12日(金)10:00～12:00 市役所 9名
内容・家庭教育支援コーディネーターの任務と役割について

・情報・意見交流

(第2回)

10月29日(火)9:30～12:00 市役所 9名
内容・家庭教育相談員(岡田さよ子さん・藤井美智子さん・高木みち子さん)を交えて意見交流および情報交換



(第3回)

1月下旬(場所・内容等は未定)

○家庭教育支援事業担当者会議

(第1回)

8月8日(木)10:00～11:30 市役所 6名
内容・平成25年度家庭教育支援事業の概要について

(第2回)

11月21日(木)15:45～17:00 市役所 8名
内容・平成26年度学校・家庭・地域の連携協力推進事業の概要について

(第3回)

3月上旬(場所・内容等は未定)



3【講座の企画運営で工夫した点】

- ・情報交換や取り組みの交流を行う中で、学校間での温度差やコーディネーターの抱える問題点を出し合い、方向性や取組重点を確認した。
- ・家庭教育相談員とコーディネーターとの連携を図り、家庭教育相談や講演会等における指導助言と支援の強化に努めた。

4【参加者の感想】

- ・取り組み交流や情報交換により、他のコーディネーターも日々苦勞されているのがわかり、前向きになった。
- ・家庭教育相談員からの話を聞いて、取り組みの方向性が見えてきた。
- ・各校の活動の情報が聞けて参考になった。

5【受講者の今後の活動について】

- ・コミュニティセンター(まちづくり協議会)など地域との連携を更に強化し、家庭教育支援活動の推進を図る。
- ・学校教職員、SSW、家庭教育相談員等と連携を深め、課題のある家庭に対する指導を強化する。
- ・あらゆる機会をとらえて、家庭教育に関する学習会等を開催する。

1 【家庭教育支援チームの構成】

- ・家庭教育支援コーディネーター
- ・まち協 子育て担当・子育てサポーター
- ・民生委員・児童委員（主任児童委員）
- ・PTA役員
（家庭教育相談員）

2 【活動の範囲】

八幡小学校	馬淵小学校
島小学校	北里小学校
岡山小学校	武佐小学校
桐原小学校	安土小学校
桐原東小学校	老蘇小学校

3 【活動範囲の児童数】

八幡小学校	862 名	馬淵小学校	174 名
島小学校	94 名	北里小学校	294 名
岡山小学校	325 名	武佐小学校	199 名
桐原小学校	459 名	安土小学校	557 名
桐原東小学校	500 名	老蘇小学校	122 名

4 【家庭教育支援チームの活動概要・特色】

- ・保護者等へ家庭教育に関する情報の提供や子育て講演会等の学習機会の企画・実施をする。
- ・校内家庭教育に関する情報を収集し、学校や家庭教育推進協議会等連携する機関に伝える。
- ・校区のまちづくり協議会の子育て担当員や子育てサポーターとの連携を行う。
- ・子育てに関する悩み相談への対応を行う。
（場合によっては家庭教育相談員のアドバイスを受けて対応する。）



5 【活動の成果】

- ・家庭教育支援に対する重要性の認識や支援する体制が市内全体に広まりつつある。
- ・保護者の悩みは幅広いので、専門家の話を聞くことと併せて、保護者同士で語り合え支え合う沙龙的な活動を始め、地域のまちづくり協議会と連携した活動を実施するなど、各校の実情に応じて取り組むことができた。



6 【今後の課題】

- ・保護者、一般教員への家庭教育コーディネーターの役割の理解がまだまだ不十分であった。周知の徹底をさらに図っていく必要がある。
- ・家庭教育支援コーディネーターが孤軍奮闘されている状態であり、まだまだチーム全体の取組となっていない、今後、チームの強化を図る必要がある。

7 【チーム員より】

- ・子育て講演会や座談会等を開催して内容も好評であり参加者数も一定あったが、子育てに悩む保護者や課題を持つ保護者の参加が得られなかった。
- ・子育て講演会を開催してもなかなか参加者が得られないので、少人数で子育て座談会を開催したところ、参加者には気軽に話を聞いてもらえたという好評であった。
- ・色々な形式や内容で開催するなど、保護者が参加しやすい場を検討していくことが大事である。

1【ねらい】

保育園や幼稚園の保護者参観日などの機会に、親が家庭教育の大切さ、子どもとのふれあいの楽しさなどを見つめなおす場として実施。また、小学4年生を対象に、命の大切さを体感し、家族との絆を深める講座を開催。子どもの成長とともに親自身も子育てを見つめ直し、成長していける講座を提供する。

2【概要】

★保護者を対象とした教育支援活動促進事業

『だいじなからだ だいじなのち』

◎講師：齋藤智孝 さん

・伴谷幼稚園 7/6 保護者

・大野保育園 10/30 保護者・園児

『子どもたちの心に絵本の種を』

◎大船めぐみ さん

・水口東保育園 6/28 保護者

・甲南南保育園 9/4 保護者・園児

『親子ふれあい運動遊び』

◎小澤かおり さん

・水口西保育園 10/17 保護者・園児

・甲南東保育園 1/21 保護者・園児

『みんなで話してみよう！子育てのこと』

◎市岡恵子 さん

・雲井保育園 2/5 保護者



★小学生を対象とした教育支援活動促進事業

■4年生対象

『10歳になった君たちへ～育ちゆく体とわたし～』

◎講師：市岡恵子 さん

・甲南第三小学校 12/2

・朝宮小学校 1/16

・山内小学校 1/17

★保護者は当日参加していないが、これまでのことを思い返し、成長したわが子について手紙を書くことで、産まれてきてくれたことを改めて喜び、子育てについて考える機会とする。



■6年生対象

『育ちゆく体とわたし』

◎講師：市岡恵子 さん 山内小学校 11/28

3【参加者の感想】

- ・改めて産まれてきてくれた日のあの感動と喜びを感じることができた。
- ・毎日忙しくて、子どものことをゆっくり考えるゆとりがなかったことに気づき、今しかないこの時間を大切にしたいと思った。子どもと過ごす時間は宝物なのだと改めて感じ親子で楽しんでいこうと思った。
- ・親子運動遊びは、道具を使わなくても体をつかってできることがたくさんあったんだと学び、楽しめた。（保護者アンケートより）
- ・家族に元気とパワーをあげたいです。これができるのも私を産んでくれたママ、いつもささえてくれる家族や地域の人のおかげだと思いました。
- ・大切に育ててくれてありがとう。命の大切さを知りました。体験をして、こんなにも苦労して育ててくれたんだと思いました。毎日が楽しく生きられるのは、お母さんや家族のおかげです。とても感謝しています。ありがとう。お母さんの子でいられることがとてもうれしいです。

（4年生「親への手紙」より）

4【事業の成果と今後の課題】

保護者を対象とした教育支援活動促進事業では、一人ひとりを受けとめ、認めることの大切さを感じてもらい、改めて子育てや家族について考える機会となった。また、子どもの成長とともに親自身が子育てを見つめ直し、成長していける講座となった。

小学生を対象とした家庭教育学習では、保護者は『手紙』という形での参加であったが、産まれた時の感動や、これまでの子育ての振り返りができる時間をじっくりもつことができた。

今後の課題としては、決まった園や小学校だけでなく、より多くの保護者に広げていくことである。

1【事業の概要、特色等】

未就園児とその保護者を対象としている家庭教育支援事業の講座内容を、会議で検討や調整をしたり、講座での後方支援をしたりして、親子が楽しく参加できるよう運営に携わる。また、メンバーが講師をすることで、参加者により身近に感じてもらおう工夫して活動をしている講座もある。

★親子ふれあい音楽広場

音楽をとおして、親子で一緒に楽しんだり親子のふれあいを深めたりすることがねらいの講座。チームで計画を立て、講師として出演もする。

■ふれあいあそびフェスタ

- ◎期日 4月17日（水）
- ◎内容 ・手遊び ・絵本読み聞かせ
・パネルシアター ほか

■いっしょに楽しむクリスマス

- ◎期日 12月11日（水）
- ◎内容 ・手遊び、ふれあい遊び
・ハンドベル演奏
・ブラックパネルシアター ほか



★はじめまして親子講座

はじめての出産・子育てを迎える保護者の子育てで不安を緩和したり、ふれあうことの大切さを伝えたり、講座を通じて保護者同士が悩みや不安を共有し、子育てを楽しむ気持ちがもてるようにすることをねらいとする講座。子育てを身近に感じてもらえるように、メンバーが講師を務める。

■らっこだっこぎゅっと～赤ちゃんとお遊ぼう～

- ◎期日 5月 7日（火）
9月 6日（金）
11月12日（火）
- ◎内容 ・手遊び、ふれあい遊び
・絵本読み聞かせ など

★家庭教育講座後方支援

子育ての楽しさや子どもとふれあうことの大切さを学んだり、基本的な生活習慣を身につけることの大切さを感じてもらったりすることなどをねらいとして、さまざまな講座を開催しているが、講座が円滑にすすむように、後方支援を行う。

■親子ふれあい食育講座

『親子で作るはちみつ梅』

6月26日（水）

『親子で作ろう！ハロウィンメニュー』

10月11日（金）

『親子でつくる簡単おせち料理』

12月 6日（金）

■ママも0歳パパも0歳

おはなし&ミニミニコンサート

『子育てを楽しもう！

～ファザーリングの極意～』

9月 7日（土）

『わらべうたと小さな音たち』

10月26日（土）

『音楽をあなたの心に・・・絵本とともに』

12月 7日（土）

2【参加者の感想】

- ・「全部楽しかったね」と子どもが言っていました。親子で楽しめてよかったです。
- ・ブラックパネルシアターや生の演奏があったのがよかった。
- ・手遊びや体を動かす時間もあり、子どもが飽きずに楽しめた。

（音楽広場アンケート）

- ・どんな絵本を選んだらよいかわからなかったけれど、教えてもらい、参考になった。
- ・赤ちゃんとのふれあい遊びを、家でもしようと思った。
- ・本の読み方を知ることができてよかった。少しの時間でも読み聞かせをしようと思った。



（はじめまして親子講座アンケート）

3【事業の成果と今後の課題】

家庭教育サポーターが講師となることで、参加者にとってより身近な存在であり、気軽に楽しめる講座となった。その時間を楽しむだけでなく、家庭でもできる内容であり、リピーターも多く、参加人数が増加傾向にある。

また、後方支援をすることにより、講座がスムーズにすすみ、参加者は安心して参加できている。

今後の課題としては、サポーターの安定した人数確保や人材育成である。保護者がより安心して、子育てを楽しんでいくための活動が望まれる。

湖南省市では、市全体をターゲットにする方式ではなく、中核となる学校にコーディネーターを配置して家庭教育支援を進めている。本年度は、菩提寺小学校と三雲小学校にコーディネーターを配置し、配置校の取組を全市に広める方式である。

少しずつではあるが、取組の輪が広がってきており、効果を期待している。

＜菩提寺小学校の取組＞

1【ねらい】

- ・現在活躍中の支援員の力量を高める勉強会。
- ・保護者に対しては、一緒に子育てを考える場。

2【概要】

＜日時＞

平成 25 年 11 月 20 日（水）

講演 10:00～12:00

交流会 12:00～14:00

＜場所＞

湖南省市立菩提寺小学校 「菩っこはうす」

＜参加者＞ 10 名

＜講師＞

山崎 有子氏

（親業訓練協会インストラクター）

「子どもに愛が伝わっていますか？」

＝心のかけ橋をきずく“親業”＝

3【講座の企画運営で工夫した点】

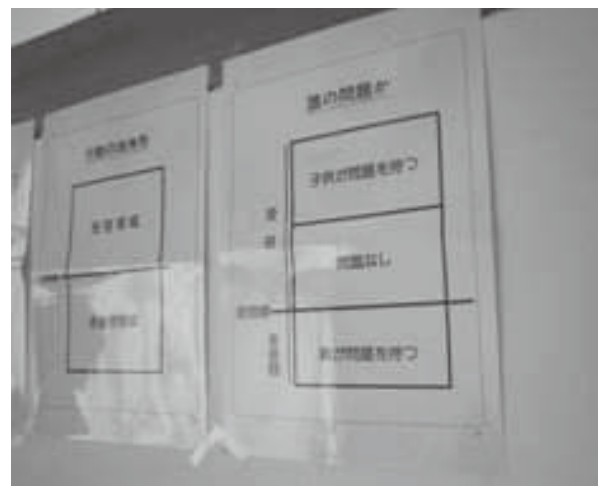
通常開催している「ほっとサロン」の延長上で講演を実施したかったので、小規模でアットホームな雰囲気をこわさない企画運営とした。



4【参加者の感想】

親も子どももお互い知っているだろう、分かっているだろうと思うのではなく、言葉に出して確認してみることの大事さが良くわかった。

子どもに対して受容すること、非受容することの区分を図に表しての説明は参考になった。



5【受講者の今後の活動について】

基本的には、今までの活動を継続していく。地域には、隠れた人材がまだまだ埋もれているので協力支援の輪を広げられるよう発信し続けたい。

＜三雲小学校＞

1 【事業の概要、特色等】

三雲小学校では、今年度から取組を開始するにあたって、従来から設置している「みくもっ子支援委員会」の中に家庭教育支援を位置づけました。まず家庭支援の前提として、家庭教育支援員が、子どもたちの様子を知り、子どもたちと関わりを多く持てるような設定をしました。特に、子育てに不安のある低学年との関わりを中心に、校内における児童への支援・行事に参加する中で子どもたちとのつながりを深めていきました。



2 【事業の成果】

三雲小学校では、家庭教育支援員が放課後の児童との関わりを含め、校外においても保護者と会話する機会が多くなり、つながりづくりが進んだことで、相談件数も増加しています。

3 【今後の課題】

家庭教育支援員が、さらに子どもたちとのつながりを深めつつ、有効な家庭支援が行えるよう努めていく必要があります。

＜菩提寺小学校＞

1 【事業の概要、特色等】

「寄り添い支援」（菩っこを育てる会）で子どもに関わっていた経験を土台に、新たに親との関わりを持ち、子育てや親子間の不安や心配事を一緒に考える場所作りをしています。

2 【事業の成果】

支援が必要とする子どもたちに寄り添う活動は継続し、学校と家庭が連携できる橋渡しとしての立場を確立しています。

今年度は、保護者を対象に「ほっとサロン」を毎週水曜日午後実施しました。参加者が有る無しにかかわらず、必ず水曜日午後はサロンを開くことで少しずつ保護者にも浸透し始めたようです。参加した保護者たちは、日ごろ思っていること、悩んでいることなどを支援員に話すことで、孤立感を排除し気持ちをリフレッシュできるように思われます。



3 【今後の課題】

保護者対象の「ほっとサロン」を通して、子どもの学校での支援、家庭への支援をより強めていく必要があると思います。そのためには、垣根を低くし、もっと気軽に話ができるように努めていきたいです。

《子どもにどう関わり合うか講座》

1【ねらい】

市内の学校（園）と連携し、公民館の出前講座として実施した。保護者を対象とするため、PTA事業との共催や、授業参観に引き続いて行う工夫など、保護者が最も参加しやすい開催方法を心がけた。市内在住の身近な有識者を講師に招いて、子どもの発達段階に応じた保護者の悩みや、その時期に大切にしたいことなどをテーマに学習した。

2【概要】

実施期間 平成25年4月～平成26年3月
 主な内容（一部を掲載）

日	場 所（対象）	内 容
6/28	今津東小学校	命の学習、命って大切、自分って大切 （講師、斉藤智孝氏）
8/24	マキノ地域小・中学校	早起き、早寝は三文の徳 （講師、辻 延浩氏）
10/30	今津東小学校	母親が安心して子育てするために （講師、平井美佐子氏）
10/25	湖西中学校	子育てについて考える （講師、小林清八郎氏）
11/2	新旭南小学校	小学3年の子どもとの関わりあい方 （講師、奈良羊子氏）

3【参加者の感想】

- ・子どもに向き合う中で、出てきた不安や悩みについて、話す機会を持てたことが良かった。
- ・子どもの成長の段階で、大切にしなければならないことを知る機会となった。
- ・子どもと一緒に学習する機会が得られて良かった。

4【事業の成果と今後の課題】

講師からの話や、同じ子どもを持つ親の体験を聞き、悩みの解消や子どもに関わっていくことの大切さを再確認する機会を設けることが出来た。

子ども達については、年々成長していく事もあるため、成長に合わせた内容についての親学習の機会を継続して設けていく必要がある。

幅広い年齢に対応できる内容、成長段階に絞った内容など、効果的な内容について研修する機会を設けていく必要がある。



《家庭教育（共育）研修会》

1【ねらい】

子どもたちを取り巻く環境が複雑に変化する中で、子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、地域全体で教育活動に取り組むことが期待されている。すべての教育の出発点である“家庭教育”は、子どもが基本的な「生きる力」を養う場であるが、これを単に親が子に対して行う教育とせず、親も子ども地域や社会で他者とのつながりを持つことが重要となっている。地域ぐるみで行われる教育活動は、子どもの社会的自立を促すだけでなく、保護者や支援者の人生を豊かなものにする効果が期待されており、このことに広い見識を有する教育評論家を講師に招いて学習した。

2【概要】

日 時：平成26年2月23日（日）

午後2時～午後4時

場 所：ガリバーホール

内 容：講演「家庭・学校・地域で子どもを伸ばすには？」

講師 教育評論家 ^{おやのちから} 親野 智可等 氏

対 象：保護者、教職員、自治会役員 等

参加者数 300人

1 【ねらい】

社会の多様化に伴い、家庭の教育力の低下が指摘されるなど、社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。

そこで、退職シニア世代を対象に、地域課題や現在の家庭教育の課題を経験上での理解にとどめることなく、家庭や地域における教育力を高め、より客観性をもった視点で現状を見る力を身につけ、地域社会全体で子どもを育てる機運を醸成する。

2 【概要】

●日時・参加者数

- | | |
|-------------|-----|
| ① 9月19日(木) | 19人 |
| ② 10月3日(木) | 18人 |
| ③ 10月17日(木) | 21人 |
| ④ 11月7日(木) | 14人 |
| ⑤ 12月5日(木) | 17人 |
| ⑥ 12月12日(木) | 16人 |

●内容

- ①遊びから学ぶ子どもの育ち
- ②子育ての今と昔
- ③病気・けが
- ④簡単お菓子づくり
- ⑤孫と仲良くなる方法
- ⑥孫育て実践

●場所 安曇川公民館

マキノ西保育園

●対象

子育て・家庭教育支援関係者および関心のある方、社会教育関係団体関係者、子育てサークル、支援団体関係者、子育てサロン関係者、民生委員児童委員、地域子育て支援センター関係者、青少年育成支援者など

●講師

環境レイカーズ 代表 島川 武治さん
市健康福祉部健康推進課 保健師
市健康福祉部健康推進課 管理栄養士
NPO法人エガリテ大手前

代表 古久保 俊嗣さん
理事 三浦 優子さん

支援員 高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

3 【講座の企画運営で工夫した点】

子どもたちの好きな遊びや病気・けがの対応などを知って、孫世代の子ども達と楽しく過ごす方法を学べるよう企画した。

最終日の「孫育て実践」では、マキノ西保育園年長児と昔あそびし、子ども達とふれあえる実践をした。



4 【参加者の感想】

- ・色々忘れていたことも少し思い出した。
- ・親ができない事は祖父母でカバーしたい。
- ・受講者の子育て体験談が聞けてとても参考になった。
- ・地域で役立てたい。
- ・楽しく体を動かしながら、大変勉強になった。
- ・地域の子ども達も自分の孫のような思いで見守りたいと思った。



5 【受講者の今後の活動について】

受講者には、高島市家庭教育支援チーム「パラソル」への参画を促し、講座での学習成果を生かして「地域ぐるみの子育て」の推進に、中心的な役割を担っていただきたい。

1【事業の概要、特色等】

本年度、子どもの育ちや子育てを地域で見守っていけるよう高島市家庭教育支援チーム「パラソル」の組織化を進めた。

●内容

①情報交換会

- ・チームの設立について確認。
- ・今の家庭や地域の子育ての現状や課題について話し合った。
- ・「高島で子育てをされていて良いなと思うこと」をテーマに話し合った。

②視察研修

県内ですでに活動されている支援チームがどのような場所でどのような内容で活動されているか、自分たちの今後の活動の参考にするために実施した。学校の中に入って家庭と地域を結ぶ役割をしている近江八幡市家庭教育支援チームと、民間で家庭と地域を結ぶ役割をしている「ほっこりひろば」(フォレオ大津一里山)、「きらきらひろば」(アルプラザ瀬田)の活動を視察した。



③研修会

- ・チーム員が情報交換会、視察研修の感想を意見発表し、自分たちが活動する上での支援対象・支援場所・内容等について検討した。
- ・チームの組織化や来年度以降の活動をアピールするためプレイベントを計画した。

④地域教育力向上講座での支援

マキノ西保育園年長児と昔遊びをする講座で、受講生が子どもたちとうまくふれあえるよう声かけなどのサポートをした。

⑤25年度中行事予定

子育て中の家族に気軽に遊びにきていただくことを目的に1月18日(土)に平和堂今津店ショッピングセンターリプルにて、親子で折り紙やフォトフレーム、松ぼっくりをつかった置物などの手づくりの体験ができるプレイベントを実施。

来年4月から、気軽に話をしたり、親同士・子ども同士の交流や、保護者の相談にのれるような定期的な活動につなげていきたい。



2【事業の成果】

情報交換会、視察研修などを経て、チームの目標が定まるとともに、支援員それぞれの目的意識も高まった。

また、地域教育力向上講座の支援にあたり昔遊びを予習し、本番では受講生をうまくリードしていた。受講生からは「支援員の姿を見て大変参考になった」という感想をいただいた。支援員にとって、4月からの拠点場所での活動に先立ち、保護者や子ども達とふれあうよい機会になったと思われる。

3【今後の課題】

平成26年度からは、拠点場所を定め、定期的に(月2回)子育てや家庭教育の相談にのったり、親子で参加する様々な取り組みや地域の情報を提供するなど、子育てに不安や悩みを抱える保護者を支援する。

また、保護者が気軽にふらっと立ち寄ることができ、また安心できるような環境づくりを目指す。

さらに、チームの持続的な活動を促進するため継続的な研修機会の提供が必要と考える。

1【ねらい】

東近江市では、学校・園、家庭、地域が連携協力し、保護者への学習機会の提供や子育ての相談等を通して、「親育ち」を応援し、子どもが豊かな人間性を育みつつ、安心して暮らせる環境づくりを目的とした。

そこで、市内幼稚園、小中学校、社会教育施設等で行われる講演会や研修会、学習会により多くの保護者を取り込むこと、支援を必要とする家庭に気軽に学べる場を多様な形態で提供することを中心に事業を進めた。

2【概要】

幼稚園・小中学校・社会教育施設に「短時間の学習会」「親子参加型学習会」「サロン型学習会」「広く公募する研修会」のいずれかの形態での実施協力を呼びかけ、実施意向のあった園・学校・施設と家庭教育支援コーディネーターが相談と調整を図りながら支援を進めた。

3【実践と参加者感想】

◆広く公募する研修会

市辺コミュニティセンターは、同じ中学校区の平田コミュニティセンターと共同主催で、船岡中学校、民生委員・児童委員、青少年育成会、PTA等各種団体にも共催を呼びかけ、「薬物依存からの回復」という演題でびわこダルク施設長を招いて教育講座を開催した。

生徒と保護者だけでなく各種団体役員の参加があり本事業の地域への啓発となった。

その他の事業でも、家庭教育研究所や運動保育士理事長、元幼稚園長、生涯学習サポート等様々な分野から講師が招かれ好評を得た。

◆サロン型の学習会

布引小学校は、講師が持ち込んだおもちゃやゲームで保護者が遊ぶことからスタート、その後子どもの記憶力や判断力を養う遊びの大切さについて語られ、体験を交えた講演は笑顔にあふれた学習会となった。

玉緒小学校は、校内研究の講師でもある臨床心理士により具体的な事例で話していただいた。親の悩みや不安、戸惑いを解消する一助となる学習会であった。

◆親子参加型の学習会

湖東幼稚園は、滋賀県ダンス教師協会から講師を招き、仲良く親子でダンスを楽しんだ。

愛東コミュニティセンターでは、短時間の学習会として2、3歳の幼児と母親によるリトミックが行われ母親同士の交流が深まった。

永源寺幼稚園では、昨年度に引き続き祖父母とのふれあい遊びが開催された。また、玉緒小学校では、親子芸術鑑賞会があり心に響く和太鼓の演奏が感動的であった。

各事業で親子が楽しむための仕掛けがたくさんあるだけでなく、様々な年代の交流が図られた学習会には喜びの声が多い。

4【事業の成果と今後の課題】

少子化、核家族化が進み、親が身近な人から子育てを学ぶ機会が減少している。幼稚園や学校に通う前の子どもを持つ親の学びの場は尚更少ないと予想される。

今年度は、愛東コミュニティセンターを通して子育て支援ボランティアへの支援ができた。これからは、乳幼児を持つ親への支援もねらいに定め、親が地域の身近な人から子育てを学ぶ機会が増える支援の方策を考え、多様な場において親育ちの支援を今後の課題とし、取り組んでいきたいと考えている。



1【ねらい】

幼稚園へ児童を迎えに來られる時間や小学校の就学時健診・一日入学など、保護者が集まる機会に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供し、家庭での教育力の向上を図る。

2【概要】

○幼稚園井戸端学習会

開催日	場所	人数
11月15日	桜谷幼稚園	16
11月18日	日野幼稚園	19
11月22日	南比都佐幼稚園	11
12月4日	日野幼稚園鎌掛分園	15
12月17日	西大路幼稚園	6
1月15日	必佐幼稚園	35

対象：幼稚園に通園している児童の保護者

講師：岡田さよ子 氏

具体的に子どもとどのように接すればよいかも示していただき、また保護者からたくさんの質問が出るなど、保護者にとって有意義な学習会となった。



感想：もっと話を聞きたい。自分の子どもに当てはまることがたくさんあり、考えさせられた。子どもとのふれあいでは、今できることから実践してみたい。

○就学前学習講座

開催日	場所	人数
11月1日	南比都佐小学校(A)	19
11月18日	西大路小学校(A)	7
11月26日	桜谷小学校(B)	20
2月7日	日野小学校(B)	100
2月7日	必佐小学校(A)	65

対象：平成26年度就学予定児の保護者

(A)講師：八耳哲也 氏

(B)講師：奥田援史 氏

どちらも例やグラフなどで分かりやすくお話しいただき、子どもとの関わり方や遊び方を振り返る機会となった。

感想：(A)もう少し子どものことをいろんな視点から

見てみようと思った。(B)今の子どもの体力が低いことに驚いた。出来るだけ外で遊ばせたい。



○PTA等子育て学習会

子育てを取り巻く課題は、地域によっても違いがあることから、PTA単位で課題に応じた子育て学習会を開催する。

今年度から保育所の保護者会も対象とし、保育所2園、幼稚園4園、小中学校3校で学習会を実施。

内容は子育てや孫育てに関すること、実際にふれあいを体験するもの等さまざまである。

学習会事例と感想：

(1)親子で体あそび 講師：藤田恭子 氏

感想：家では親子で触れ合う時間がなかなかとれないので、今日を機会に少しでも遊ぶ時間を作っていきたい。

(2)孫と一緒に考えよう 講師：菱川きよみ 氏

感想：思いやりや優しさの伝え方を考えさせられた。子どもたちが愛されている、大切にされていると感じられるような接し方をしていきたい。

3【事業の成果と今後の課題】

○幼稚園井戸端学習会、就学前学習講座

さまざまな機会を捉えて学習会を開催することで、普段は講演会に参加できない保護者にも学習機会を提供できている。しかし、地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。

また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。

○PTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。今年度からは保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供できた。

講師選定の参考となる資料を提供していくなど、より家庭教育支援に繋がる学習会となるよう図っていきたい。

1【ねらい】

地域社会全体で子育てを行う気運を高めるため、地域社会で子育てに関わる必要性についての基本的な講義を行うとともに、実際に子育て支援者として活動する際に役立つ実践的具体的な講義を行い、地域の子育て支援者を育成することを目的とする。

2【概要】

日時・場所：

回	日時	場所
1	11月27日(水)	日野公民館
2	12月4日(水)	
3	12月11日(水)	
4	12月18日(水)	
5	1月24日(金)	保健センター

参加：10名

○第1回『なぜ子育て支援が必要なの？』

講師：古橋紗人子 氏

現代の子育て家庭の現状を踏まえて、子育てを「孤育て」にさせないために、地域社会で支援することが必要である。

○第2回『子どもの人権ってなあに？』

講師：初田元明 氏

子どもには、安心して、自信をもって、自由に生きる権利がある。その権利を守るためには、子どもが自分の権利に「気づく」力を育み、親が不適切な子育てに「気づく」機会を与えることが大切。



○第3回『やってみよう！ふれあい遊び』

講師：川嶋佳代子 氏

ふれあい遊びを通して基本的な信頼関係

と自尊感情、さらに社会性や感性、言葉が育まれる。親子と一緒にふれあい遊びをすることで、親の力をひきだす支援をして欲しい。



○第4回『「聴く」って大切！』

講師：菅原裕子 氏

考え方、感じ方に違いがあっても当たり前であり、先入観を持たずに相手の話を受け入れ、相手の心に寄り添って「聴く」ことが大切。

○第5回『実際に参加してみよう！』

親子プレイステーション事業に参加し、実際に子育て支援を体験していただいた。

3【講座の企画運営で工夫した点】

子育て支援には親への支援が大切であると考え、そのために知ってもらいたいことを、ワークショップなどを取り入れ、実際に体験しながら学んでいただける講座にした。

4【参加者の感想】

今の子育て家庭が抱える課題と、地域で子育てを行う大切さを知ることができた。話されたことをワークショップで体験でき、とても良く分かった。などの感想があった。

5【受講者の今後の活動について】

受講者には、子育て支援者として町の子育て支援事業や地域の子育てサークルなどで親子と一緒に遊んだり、親の相談相手になるなどの活動をしていただく予定をしている。

1 【ねらい】

- ・子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を開催する。
- ・町内単位PTAが一堂に会して研修会を開催することで、互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深めるなかで、地域の教育力の醸成を図る。

2 【概要】

○学校・家庭における教育講演会

- (1) 日時 8月27日(火)
- (2) 対象 中学校生徒、教員、保護者
- (3) 内容

講演 「やさしい心が 一番大切だよ」

講師 小森 美登里 氏

いじめ問題について、どう受け止めどう向き合うことが、安心して学び合える学校づくりにつながるのかを、生徒、教員、保護者がともに考えるため開催する。

○子育て支援・家庭教育支援学習

- ・お弁当作り講習会
- (1) 日時 9月5日(木)、17日(火)
- (2) 対象 竜王幼稚園 3歳児保護者
- (3) 内容

3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちに「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもが喜ぶお弁当」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供する。

- ・子育て講演会

- (1) 日時 9月10日(火)
- (2) 対象 竜王西幼稚園保護者
- (3) 内容

講演 「思いやりの心で いきいき子育て みんなが笑顔」

講師 安倍 映子 氏

子育てについての不安や気がかりを解消し、子育てを楽しめるようにする。また、同じ子育てをする仲間として互いに支え合えるような関係づくりを支援する。

○竜西フェスティバル

- (1) 日時 11月16日(土)

- (2) 対象 竜王西小学校 小学生、保護者

- (3) 内容

地域を題材にした紙芝居を朗読することにより地域の文化や歴史を学び、また、ダンスや科学実験など親子で参加体験し地域のひととの交流を深める機会とするために開催する。

○竜王町教育フォーラム2013

- (1) 日時 11月23日(祝)
- (2) 対象 保護者、教職員、
- (3) 内容

事例発表「子ども達の生きる力をはぐくむ

PTA活動」 竜王幼稚園PTA

講演 「オリンピックを夢見た親子の物語」

講師 伊藤 敦子 氏

3 【参加者の感想】

- ・子育て、教育について大変役に立つ意見のためになりました。
- ・忙しいことを理由に子育てを手抜きしないように気をつけたいと改めて思いました。
- ・子どもは環境と大人の思い(教育)で変わる。自分をみがける人になるのは厳しい教育が必要と思いました。



(竜王幼稚園PTAの事例発表の様子)

4 【事業の成果と今後の課題】

親として子どもと向き合い伝えていかなければならないことを再認識する場となった。

今後も、子どもを通して親自身も成長することができ、親同士が人とのつながりを感じながらネットワークを広めていくことができるような活動を計画していくことが大切である。